

国連・世界保健機構共催「西太平洋地域人口動態・衛生統計トレーニング・コース」

1 人口動態・衛生統計トレーニング・コースの開催

標記のトレーニング・コース (UN-WHO International Training Course on Vital and Health Statistics for the Western Pacific Region) が、1960年10月17日から11月25日までの6週間にわたってフィリピン共和国マニラ市の世界保健機構西太平洋地域事務局 (WHO Regional Office for the Western Pacific Region) において開催された。国連と世界保健機構 (WHO) の人口動態・衛生統計の専門家9名が常任講師としてトレーニング・コースを教導する任に当たり、また WHO Regional Office for the Western Pacific の Dr. S. K. Quo (郭松根博士) がその Director として統括的運営に当たられた。その他、現地のフィリピン政府の統計関係機関の要員が特別講師として、フィリピンの人口動態・衛生統計事情を説明された。

一般参加者あるいは受講者は、WHO で定めている Western Pacific Region (中華民国、マラヤ連邦、フィジー、日本、韓国、フィリピン、ポルトガル領テモール、米国信託統治太平洋諸島、ベトナム、西サモアの諸国領域) 以外に、South-East-Asia Region (ビルマ、インド、インドネシアの諸国) および Eastern Mediterranean Region (イランおよびパキスタン) からもあり、合計16か国41名の多きに上った。日本からは本研究所調査部企画科河野稠果技官のほか、厚生省大臣官房統計調査部製表課長中尾仁一技官、同部計析課上田フサ技官および白石昌嵩技官の計4名が参加した。河野技官は国連のフェローシップを受けたが、中尾、上田、白石の各技官は、WHO のフェローシップを受けて出席された。

2 その目的

近年、西太平洋地域諸国における人口動態・衛生統計は相当程度の改善をみせたが、しかし、多くの国々においては依然として、経済の開発、発展計画、あるいは公衆衛生、医療問題の改善計画に利用し得るだけの規模と質をもった統計資料を欠いているとみられる。特に、最も切実な当面の問題として、この地域においても1960年から1961年の間にほとんどの国が国勢調査を施行するが、その後の人口推計はまさに、その国勢調査に基づき人口動態統計のプラス、マイナスによって行なわれるものであり、1960～1961年以降に正しい人口推計を行なうためにも、一国の全領域にわたる規模でかつ精度の高い人口動態統計を得ることが肝要である。これらの事情にかんがみて、国連と WHO はこの地域および隣接地域諸国の政府統計関係機関の職員をフィリピンのマニラに招集し、国際的なトレーニングを行なった。その他、国連および WHO によってこのトレーニング・コースの一般目的としてあげられたものは次のごとくである。

(1) 各国の住民登録および人口動態・衛生統計に従事している政府機関職員に、有用な統計収集の組織、収集過程の知識と統計資料分析方法を付加するトレーニングを与えること。

(2) 参加者をして、同じ系統の仕事に従事しているほかの国の参加者と実際上の貴重な体験、意見、考えを交換する機会を与え、お互いの長所を取り入れ、より良い、より能率的な統計制度あるいは組織を作るようにさせること。

(3) 公衆衛生状態・医療状態改善のための統計資料の利用方法を論じ、人口動態・衛生統計を得るための一般的必要条件を確立すること。

(4) 西太平洋地域諸国の人口動態・衛生統計に従事する統計家達同志間の、あるいは国際機関との専門的な接触を深めること。

(5) 人口動態・衛生統計に関しての国際機関のプログラムや目的を知らせること。

(6) 人口動態・衛生統計に関する国際的な標準・規準や勧告を知らせ、これらの標準・基準や勧告を、西太平洋地域の諸国に、それぞれの諸国の特殊性は考慮しつつも応用する方法を共に研究し合うこと。

3 講師陣

このトレーニング・コースの常任講師となった人々は、次に掲げるとおりである。

国連側：

Mr. O. Cabello, Staff member, Statistical Office, United Nations, New York (当時).

Miss Nora P. Powell, Staff member, Statistical Office, United Nations, New York.

Dr. P. B. Patnaik, United Nations Principal Adviser, Statistical Training Center, University of the Philippines, Manila.

Miss Kathleen Jupp, United Nations Demographer, Statistical Training Center, University of the Philippines, Manila (当時).

WHO側 :

Dr. S. K. Quo, Director for the Training Course, Regional Statistician and Programme Evaluator, World Health Organization Regional Office for the Western Pacific, Manila.

Dr. Yves Biraud, Director, Division of Health Statistics, World Health Organization, Geneva (当時).

Dr. W. P. D. Logan, Chief Statistician (Medical), General Register Office, London (当時).

Dr. S. Swaroop, Chief, Health Statistical Methodology Section, World Health Organization, Geneva.

Dr. Marie Cakrtova, Chief, International Classification of Diseases Section, World Health Organization.

ほかに WHO およびフィリピン政府およびフィリピン IBM から特別講師としてそれぞれ専門家が現地に即した特殊講義を行なったが、そのうちのおもな人々は次のとおりである。

Mr. Manuel E. Buenafe, Director, Bureau of the Census and Statistics, Department of Commerce and Industry, Manila.

Mr. Burton T. Oñate, Acting Director, Office of Statistical Coordination and Standards, National Economic Council, Manila.

Dr. Victor C. Valenzuela, Professor in Biostatistics, Institute of Hygiene, University of the Philippines, Manila.

Dr. Jacinto J. Dizon, Project Director, Disease Intelligence Center, Department of Health, Manila.

Dr. W. Alves, WHO Scientist, Bilharziasis Control Pilot Project, Palo, Leyte, Philippines.

Mr. Ruperto K. Capistrano, Electronic Data Processing Machine Expert of the International Business Machine Corporation, Philippines and Professorial Lecturer in Business and Economic Statistics at the University of the Philippines and Far Eastern University, Manila.

4 コースの内容

トレーニング・コースは、その形式によると大別して四つの部分に分けられる。その1は、以上列挙した国連および WHO からの常任講師による一般講義およびその他の特別講師による特別講義である。その2は、一般講義に時として付帯する演習であり、それは卓上計算器による種々の計算、調査票あるいは Survey Schedule の作成、WHO 編集による国際死因分類による分類演習を含むものである。その3は、このトレーニング・コースの応用であり、実地訓練ともいふべきマニラ市の東 Lagna Province ラグナ湖 (Lagna Lake) の東岸にある Kabuyao という町と Pulo という村の住民に対する、トレーニング・コース参加者によって実施された人口学的、衛生統計的サンプル調査の施行である。これは、サーベイ・デザインの設定、サンプリング、調査の後の計算、製表等の過程を含める。最後に第4として、フィリピンの統計関係諸機関の訪問、見学である。それら訪問した諸機関は次のとおりである。

- 1) Bureau of the Census and Statistics, Department of Commerce and Industry.
- 2) International Business Machine Corporation, Philippines.
- 3) Disease Intelligence Center, Philippine Department of Health.
- 4) Office of Civil Registrar, City of Manila.
- 5) Statistical Trainig Center, University of the Philippines.

このトレーニング・コースの主軸となったものは、以上の四つの形式的に分かたれた部門の中の第1のもの、すなわち講義といわれるものである。もっとも、ここで「講義」といっても、日本の大学や講習会で通常行なわれているいわゆる講義のように、講師が一方的にしゃべり、学生あるいは受講者が全く受身的にノートを取るといだけのものではなく、講師は絶えず参加者に質問をし、また各国の実状を具体的に参考として述べさせ、また、それぞれの実状に即した意見を聞きながら進行するという、それ自身多分に「演習」的性格を帯びたものであった。

このトレーニング・コースは、前記のごとく1960年10月17日から11月25日までの6週間にも及ぶ長期間のものであり、その日程についての詳細を載録することは、紙幅の関係上できないので、どのようなアスペクトに重点がおかれて講義が展開されたかということ、すなわち、メイン・タイトルを記すと次のごとくである。

(1) 人口動態・衛生統計収集・作成の目的。どうして人口動態・衛生統計を集計し、発表する必要があるかということ。

(2) どのような種類、範囲の人口動態・衛生統計が必要であるかということ。必要な統計表のリスト。

(3) それぞれ人口動態統計、衛生統計を得るためには、いかなる方法があるかということ。一般に行なわれている人口動態統計、衛生統計の集計・作成のための制度、組織、過程、手続きの整理、図式化。各国のそれらの比較。

(4) 人口動態統計に用いられ、あるいは操作される人口動態現象の概念、用語あるいは関数の定義、解明。

(5) 死亡統計における国際死因分類、疾病統計における国際疾病・傷害分類に基づく定義および分類。WHOの勧告について。

(6) 人口動態統計およびそれに関連した人口静態統計の利用と評価。経済的、社会的プログラミングのためにこれらの統計はどのように取り入れられるべきか、また、特に、生活水準の測定に有用なものとしての人口動態静態統計および衛生統計の利用について論じられた。国連勧告の生活水準に関する諸指標について、それらがどの程度各国において実際に得られるかということに関して、各国の統計事情が聴取された。

(7) 人口動態統計あるいは人口統計学において用いられる基本的分析、比較方法。人口統計学的諸率の計算方法、標準化の計算方法、生命表（簡略）作成方法等。特にこの簡略生命表作成方法に関しては、一般参加者の中から生命表作成経験者として韓国内務部統計局課長 Dr. Chai Bin Park (朴在彬氏)、University of the Philippines の生物統計学助教授の Professor Ildefonso Cruz、および講師の Mr. Charlemagne T. Tamondong、そして本研究所の河野稠果技官が選ばれ、生命表の一般理論、その応用および、特に、T. N. E. Greville の方法による簡略生命表作成の過程を demonstrate した。

(8) 人口動態統計の精度の評価の諸技術、方法。Internal および external check について。

(9) 死亡と疾病総論。

(10) 世界各国における人口動態の動向、比較。人口構造と人口動態との関連について。後進国と先進国との死亡の傾向の分析。

(11) 衛生統計の分析方法および評価。

(12) 公衆衛生活動の評価。

- (13) 母子衛生統計。
- (14) 疾病統計の source およびそれぞれの source による疾病統計の比較。
- (15) 特定の疾病に関する疾病統計論。法定・届け出伝染病，がんとマラリア。
- (16) 栄養調査について。
- (17) 統計的調査の一般的方法論。サーベイ・デザイン等について。
- (18) サンプル理論とその応用。
- (19) 集計・製表に際しての諸方法。カード・ソーティングの方法，特に IBM の方法について。
- (20) グラフ作図の諸技術および諸注意。

(河野 技 官)

人口問題審議会の人口白書に関する特別委員会委員の決定

人口問題審議会の委員の決定は，すでに本誌第79号に報じたとおりであるが，人口白書に関する特別委員会委員長野村兼太郎博士の死去により，同委員会委員として次の諸氏が昭和35年12月12日決定し，委員長として森田優三博士が選任された。

人口白書に関する特別委員会委員			(50音順)
	氏 名		現 職
委 員	森 田 優 三		一橋大学教授
	岡 崎 文 規		日本社会事業大学教授
	亀 井 光		労働事務次官
	北 岡 寿 逸		国学院大学教授
	小 出 栄 一		経済企画庁事務次官
	高 田 正 巳		厚生事務次官
	寺 尾 琢 磨		慶応義塾大学教授
	藤 林 敬 三		慶応義塾大学教授
	山 中 篤 太郎		一橋大学学長
専門委員	飯 田 良 一		内閣総理大臣官房審議室長
	稲 葉 秀 三		国民経済研究協会理事長
	大 崎 康		厚生省大臣官房企画室長
	加 用 信 文		農林省農業総合研究所次長
	館 稔		厚生省人口問題研究所長
	本 多 龍 雄		厚生省人口問題研究所研究部長
	美濃口 時次郎		名古屋大学教授

(調査部資料科)